

エアロゾル-雲相互作用について語らう会

開催日：2016 年 2 月 26 日（金）

場所：国立極地研究所 3 階セミナー室（C301）

【概要】

エアロゾル-雲相互作用（エアロゾル粒子が雲の形成過程に与える効果など）は、地球の放射収支や降水過程に大きな影響を及ぼしていると考えられるが、その科学的知見は非常に乏しいとされている。本研究集会では、エアロゾル-雲相互作用に関して、様々な異なるアプローチ（現地観測、衛星観測、室内実験、数値実験など）で取り組んでいる研究者が集まり、これまでの各々の研究をわかりやすく解説し、意見交換を行うことを目的とする。

発表時間の大きな目安：一人 30 分程度（発表：約 20～25 分、質疑応答：約 10 分）

午前の部（10:00～11:45）

01 趣旨説明

02 エアロゾル-雲相互作用とその気候影響

鈴木 健太郎（東大・AORI）

03 中緯度から北極へのエアロゾルの輸送と降水除去

近藤 豊（極地研）

04 東京スカイツリー雲・エアロゾル観測計画について

三隅 良平（防災科研）

昼食（11:45～13:30）

午後の部・前半（13:30～15:45）

05 夏季の富士山頂における雲凝結核と霧粒の同時計測

岩本 洋子（東京理科大）

06 氷晶核濃度のパラメタリゼーション化に関する取り組み

當房 豊（極地研）

07 大気エアロゾルの氷晶核能の定量化について
-黄砂およびローカルダスト-

田尻 拓也（気象研）

08 雲粒・氷晶発生を扱う詳細雲微物理ボックスモデルの開発

山下 克也（防災科研・雪氷）

休憩（15分程度）

午後の部・後半（16:00～18:00）

09 SCALE-LES におけるエアロゾルモジュールの実装

梶野 瑞王（気象研）

10 超水滴法によるエアロゾル-雲相互作用の定量化に向けた取り組み

島 伸一郎（兵庫県立大）

11 全球雲解像モデルを用いた雲とエアロゾル相互作用に関するシミュレーション

佐藤 陽祐（理研）

12 総合討論